

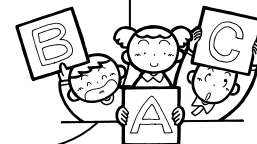
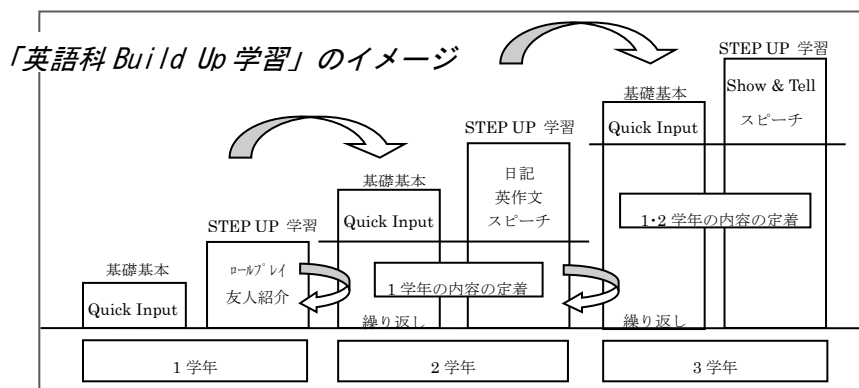
英語科シラバス（第1学年）

1. 基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- 繰り返し学習である「Quick Input 活動」では基本文の定着を目指します。
- 単語などの小テストの実施による基礎・基本の徹底を目指します。

2. 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- 「Quick Input 活動」や「My Project」などで、さらに実際に活用させる場面を作り応用力を高めていく「Step Up 学習」へと活動を広げていきます。
- 1年生では「他の人を英語で紹介しよう」などの課題に取り組みます。Quick Input 活動で定型文やたくさんの表現を学び、その表現の語句を置き換えることで、自分の意見や考え、経験を文章にしていくアウトプット活動につなげていきます。



3. 学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- 「新授業六束」を確実に守り、授業に主体的に臨む姿勢を育成します。
- ノートやワーク、Quick Input 等を活用し、家庭学習を習慣化できるようにします。
- 授業で習った内容を定着させるため、宿題を提示します。必ず家でやりましょう。

4. 1年生の目標

アルファベットの発音や書き方から学習を始め、語句や文法事項など英語の基礎を身につける。特に、教科書本文の意味がわかる（読むこと）、授業内の指示が英語で聞ける（聞くこと）、みんなの前で英文を発表する（話すこと）、自分や他の人のことなどを英文にできる（書くこと）を目標とします。

5. 使用教材と持ち物「5点セット」

- 教科書1冊（開隆堂 Sunshine 1）
- ノート1冊（授業用ノート）
- ファイル1冊
- ワーク1冊（文法学習用・最初の方に使うもの）
- 英和辞典 ※授業で詳しく説明します。



6. 授業について

- 休み時間のうちに授業の用意をしましょう。
- A L T（外国人の先生）が来た時には、積極的に会話に参加しましょう。
- 忘れ物をしたときには、授業前に先生に報告しましょう。
- 宿題はほぼ毎時間出ます。毎回、忘れずにやる習慣をつけましょう。
- 参加意欲や授業態度、単語テストや提出物は評価に影響します。

7. 英語の学習法・ポイント

- 新しくでてきた単語や文法は全て確実に覚え、書けるようにする。
- 授業中の発音、発言は大きな声で確実にする。
- 授業で習った内容はワークや宿題を活用して、その日のうちに復習する。
- 定期試験までに、学習している文法項目を整理して、まとめておく。
- “Quick Input”のシートを繰り返し音読して、反射的に受け答えできるようにする。



8. 評価の観点と評価規準

観点	評価内容	評価方法
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを話したり、つなぎ言葉を使って話を続けたりしようとしている。 間違いを恐れずに積極的に言語活動に取り組める。 積極的に音読し、わからないところは辞書を活用して読もうとしている。 知っている語句や表現を使って相手に英文を書いて伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話活動 クイックへの取り組み 挙手、発言 提出物等
思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を話したり書いたりすることができる。 場面や状況にふさわしい表現を用いて話したり、応答したりできる。 . 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト スピーチや作文 音読テスト
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の考えや意見を聞いて理解することができる。 まとまりのある英文を読んで、あらすじやその内容を理解することができる。 英語の言語構造を理解し、正しい語順と文法で身につけている。 英語を使う上で必要な英語圏の生活習慣や文化的背景について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト リスニングテスト 長文読解 英単語テスト ワークシート

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（^{マル}AO=5点、^{マル}A=4点、^{マル}B=3点、^{マル}CO=2点、^{マル}C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} AO ^{マル} AO ^{マル} AO	15点	^{マル} AO ^{マル} AO A	14点			5
^{マル} AO A A	13点	A A A	12点	^{マル} AO B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B ^{マル} CO	8点	3
B ^{マル} CO ^{マル} CO	7点	^{マル} CO ^{マル} CO ^{マル} CO	6点	^{マル} CO ^{マル} CO C	5点	2
^{マル} CO C C	4点	C C C	3点			1

9. 学習内容と評価のめあて

	月	学習単元	学習内容・文法項目	学習のねらい
1学期	4	身の回りの 英単語 Get Ready 1~4	<ul style="list-style-type: none"> 英語でのあいさつ、授業で使う英語の指示 アルファベットに慣れよう アルファベットが表す音を聞こう。 アルファベットを書こう。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語であいさつしたり、やさしい指示を聞いて行動したりすることができる。身の回りの英語を聞き取れる。 アルファベットの文字と音の関係 アルファベットを書ける。
			<ul style="list-style-type: none"> I am ~. You are ~. Are you ~? I'm not ~. Where are you~? 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な自己紹介を書ける。 相手のことを表現したり、たずねたりできる。 どこにあるのか尋ねられる。
			<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞 Do you~? ・I don't ~. When do you~? 	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞（play, like, eat など）を用いて、自己紹介をすることができる。 Do を用いた疑問文とその応答文を理解し、身の回りのことについて情報収集ができる。 When を使って時を尋ねる表現ができるようになる。
			<ul style="list-style-type: none"> I can~. Can you~? What can you ~? 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ができることやできないことについて、英語で自己表現ができる。
	5	Program 1 Program 2 Program 3 Program 4	<ul style="list-style-type: none"> This is~. That is~. He/She/It Who is~? 	<ul style="list-style-type: none"> 家族や身の回りの物を紹介したり、たずねたりできる。 人物について尋ねられる。
			<ul style="list-style-type: none"> 三人称単数形（She plays .） Does ~ ? / She doesn't like~ . 	<ul style="list-style-type: none"> ほかの人のことについて言ったり、尋ねたりできる表現を学び、第三者についてより多くの情報を得る。
<ul style="list-style-type: none"> him / her Why do you~? Because~. 			<ul style="list-style-type: none"> 理由をたずね、それに答えられる。 	
<ul style="list-style-type: none"> There is / are ~. Are there~? How do you~? 			<ul style="list-style-type: none"> 人やものの存在を言える。 方法や手段をたずね、それに答えられる。 	
2学期	8 9 10 11 12	Program 5 Program 6 Program 7 Program 8	<ul style="list-style-type: none"> 現在進行形（I am cooking .） What are you doing? 	<ul style="list-style-type: none"> 今起きていることを相手に伝えることができる。

3 期	1 2 3	Program9	<ul style="list-style-type: none"> • I visited . • Did you ? / I didn' t~. • I went to~. 	<ul style="list-style-type: none"> • 一般動詞の過去形（規則）を用いて、過去について表現したり、質問したりできる。 • 一般動詞の過去形（不規則）を用いて、過去について表現したり、質問したりできる。
		Program10	<ul style="list-style-type: none"> • I was ~. • Were you~? • Was he ~? 	<ul style="list-style-type: none"> • 過去の状態を表現できる。過去にしていたことを発表できる。